

令和6年4月1日



令和6年度の学校経営にあたり

佐世保市立広田小学校
校長 高島 秀雄

2024年度（令和6年度）は、私たちがこれまで過ごしてきた普段の生活でスタートすることができました。世界を震撼させた新型コロナウイルス感染症も一定収まり、令和5年5月に感染症法上の分類も2類から5類に移行しました。この約3年あまり、感染拡大防止という生活様式の中での教育活動は、子どもたちの健全な成長に様々な効果や影響がありました。どのような状況下にあっても、子どもたちは、今を生きており、与えられた時間の中で自分が成長するために一生懸命生きていかねばなりません。ですから、教育職に携わる者の責務は大きく、この子たちに、将来の我が国、あるいは地球市民、社会の形成者として必要な資質・能力の基礎を身に付けさせること、公民として必要なルールを身に付けさせることを行わねばなりません。これが学校の役割であります。

広田小学校は、明治5年の学制発布に伴い、一村に一村の小学校設置が県令発布となったことで、広田村あった寺子屋式の私塾7つが協議し、浦川内の青山子屋敷が小学校草創期を担いました。その後、児童数の増加が予想されたため、宮崎免の古川塾を買収して明治八年に広田小学校校舎を建設して移転し、現在に至るとい歴史のある創立150年を迎える小学校であります。児童数の変遷をみますと明治16年は61名、その後、昭和時代は標準規模の学校でしたが、平成時代に入り市街化調整区域内での農地転用が進んだことで集合住宅や戸建てが急増し、児童数が増えました。平成22年には1000名を超え、平成27年に県内最大の児童数1059名、学級数も平成29年は36学級という状況にありました。これは、佐世保市の中で、広田地区は平地が多く、商業施設も充実していること、校区内に小学校1・中学校1・高等学校1（全日制総合学科）があり「住みたい町・子育てしやすい町＝広田」という構図があると考えます。また、平成29年度に小中一貫型教育の取組の一つとして広田中学校内に6年生教室を増設し、同年から6年生を通学させています。中学校内で6年生が生活することについて、そのメリットを生かす小中一貫型学校教育を行うことで、広田ならではの義務教育を展開し、現在に至っております。

わたしたちは、広田小学校校歌にもありますとおり「朝だ夜明けた 世紀の朝だ」という長い学校歴史の中で育つ子どもたちに明るい希望を持たせ、「強いからだに 心も清く」なる教育を行い、「築こういっしょに 新しい世を」と言える次代を担う人材を育成しなければなりません。

令和6年度、縁あって広田に通学する子どもたちと先生方、そして保護者の皆様、地域の皆様。ここでの出会いを運命ととらえ、広田の子どもたちを愛し、育てる喜びを感じながら、皆様が一体となって共にいい時代（とき）を過ごせることを期待して教育活動を展開します。よろしくお願ひ申し上げます。